

## 1. おかしな日本語に興味を持った理由

私は2009年～2010年にかけて吉池先生のゼミに参加していた。そのゼミで吉池先生が中国のお茶の箱に書いてある「おかしな日本語」を紹介し、「これも研究になりますよ。」と言っていたことが調べてみようと思ったきっかけである。

「おかしな日本語」の紹介を通して、今回は**日本語の間違え方にはパターンがあること**をお伝えできればと思う。

## 2. 日本語の間違え方

まず最初に挙げられるのが、**形の似ている字で書き間違える**傾向があるということである。右の写真を見ていただくと、「超強力あぶちとり」と書いてある。正しくは「あぶらとり」であるが、「ら」と「ち」は形が似ている。



先ほどの例は、ひらがなを形の似ている別のひらがなで書き間違えたものであったが、カタカナでも同様のことが起こる。一番右の写真を見ていただくと「ガッチャマン」となっているが、正しくは「ガッチャマン」である。



しかし、ひらがなを形の似ている別のひらがなで、カタカナを形の似ている別のカタカナで書き間違えるとは限らない。中央の写真を見ていただくと「プシャェト」と書いてあるが、正しくは「プレゼント」である。カタカナの「レ」を形の似ているひらがなの「し」で書き間違えている。つまり、ひらがな・カタカナ関係なく形の似ている字で書き間違えるということである。形の似ている字の区別は日本語学習者にとっての難点の一つであることが伺える。

次に挙げられるのが、「ゃ」、「ゅ」、「ょ」、「っ」などの小さい字を小さく書かないことが多いということである。右の写真を見ていただくと「デラツクスなテイイツシユカバー」となっており、「ツ」、「イ」、「ユ」が小さく書かれていない。



また、こちらの右の写真では「デヨーザ」(正しくは「ギョーザ」)となっており、「ヨ」が小さく書かれていない。



どのような場合に大きく書き、どのような場合に小さく書くのかを区別することも日本語学習者にとっての難点であることが伺える。

### 3.まとめ

今回は、おかしな日本語のタイプ、すなわち間違えパターンの2つ—(i)形の似ている字で書き間違える,(ii)小さく書く字(や,ゆ,よ,つ)を小さく書かない—を取りあげた。今回載せたどの写真を見ても我々日本人にとって可笑しくて笑ってしまうものばかりであろう。しかし、おかしな日本語を通して見えてくることがある。それは、日本語を習得する上での外国人の多大な苦勞である。「し」と「レ」を挙げてみても我々は容易に区別できるが、外国人にとっては至難の業なのである。我々日本人にとって当たり前にできることが外国人にとってはそうではないのだということを学ぶことができる。

もし我々日本人が「し」と「レ」の区別なんて出来て当たり前と思っていたならば、外国人に日本語を教える際に、形の似ている字の区別に特に力を入れて教えようとは思わないのではないだろうか?外国人にとっては「し」と「レ」の区別は出来て当たり前、ではないのだと気付いて初めて、形の似ている字の区別に力を入れて教える必要があるということに気付くことができる。自分にとって当たり前なことが果たして本当に当たり前なのだろうか?と考え直してみることは様々な分野で生きてくる。道が拓かれていく。日本語教授という分野においては、どこに重点を置いて教えた方がいいのが明確になり外国人により分かりやすく日本語を教えることができると私は思うのである。

<参考資料>

sawadan <http://www.sawadan.com/osorubeshi.html>

写真資料の利用をご快諾頂き感謝申し上げます。